

## 努力し続けて諦めないこと

巖瑞蓮

巖瑞蓮と申します。大学進学の時、不本意ながら河南大学日本語学科に入学しました。大学四年生の時に、大正大学に交換留学の機会を得て、日本に一年間留学しました。大学卒業後、大学院の受験について何も分からないまま、いきなり一橋大学大学院を受験し、結果はもちろん不合格でした。しかし、日本の国立大学の大学院に入りたいという夢を絶対諦めたくありませんでした。そして、クラスメイトだった王さんの紹介で、亜細亜友之会外語学院大学院進学コースに編入させてきました。2015年2月、国立東京学芸大学教育学研究科の研究生に合格しました。

亜細亜にいる時間は短かったのですが、収穫が多い半年になりました。これから日本に来る皆さんに、自分の経験と教訓をお話したいと思います。

まず、自分の状況に合わせて相応しい目標を定めることが一番大切なことです。自分の興味関心を持っていることに大事にしたほうがよいと思います。その次は大学と教授の情報を収集して自分の志望校と指導教授を絞っていきます。大正大学に居る間に、十分時間があつたのに、大学院受験に関する情報を全く持つことができなかったのも、無駄な時間を費やしてしまいました。自分の研究テーマを決めてから、先行研究をたくさん探さなければなりません。先行研究の結果を踏まえて、このテーマのどこを深めていくのか、何をハッキリさせるのかを考えることがもっとも重要だと思います。ここで、一番お勧めの場所は国会図書館です。国会図書館では、日本で刊行された全ての書籍と様々な電子版の論文集を閲覧することができます。資料の種類によって、有料でコピーをしてもらえます。研究計画書ができたら、学校の先生に見せて意見とアドバイスを頂き、何回も修正する必要があると思います。そのほかに、大学の教授とコンタクトを取る時には、一回、二回のメールで無視されたとしても、諦めないで心当たりのある大学と教授のところにメールを送信し続けたら、そのうち返事をして下さる先生も現れると思います。

文系の大学院の受験は、日本語能力と面接が非常に重要だと思います。亜細亜に来た時は既にN1に合格していましたが、学校の日本語の授業はとても役に立ちました。小論文を書く練習、論文の講読、研究計画書の作成などの授業は本当にとてもいい勉強になりました。また、大学院の面接試験の重要性も軽視できないと思います。筆記試験でよい点数を取れば絶対大丈夫だと思っている人が居るようですが、この考え方は絶対間違っています。文系の学生は理系のように自分の世界に閉じこもってひたすら研究すればよいというわけには行きません。自分の論点を人に説明したり、研究の途中に他人とコミュニケーションを取ったりして、要するに人の前で話をするのが常に要求されています。

最後に、生活の面でも勉強の面でも多くサポートして下さった亜細亜友之会外語学院の先生方に心から感謝いたします。皆さんも、日本で実り多き留学生活を送られるよ

うにお祈りします。